

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 会談録（日・琉球 首脳、政府高官）Ⅷ

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-21 キーワード (Ja): 椎名, 三木, 外務大臣, 太田, 松岡, 屋良, 主席, 堀総務副長官, ランパート高等弁務官, 屋良主席, 愛知外務大臣に対する要請書 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43191">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43191</a>

46  
7  
30

三木前外相、屋良主席

ソカヒ  
万大博販  
大政事外外儀官  
事務次長 典房  
巨官官審審長長  
徴給入電厚計  
徴給文会管給  
国資長 参調析企  
價移長 参領旅移

ア 参地中東  
長 北西  
参北北保  
中南  
参一  
参西東洋  
長 西東

近ア長 参書近ア  
経 次総経国万  
長 参領統  
協 参政技二  
長 参条議規  
国 参政経科  
長 参道内外  
文 長

注意  
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

278

総番号(TA) 37606  
70年7月31日 10時59分 沖繩 猪着  
70年7月31日 15時01分 本省 猪着  
外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理  
三木・ヤラ会談

第233号 略  
貴電米北/第/37号に関し  
30日、三木前外務大臣一行とヤラ主席の会談の際主席の  
ちん情した要旨次の通り。(当方ヨシオカ公使同席)  
1. おきなわ住民は戦争の直接の犠牲者となり戦後は戦  
後処理の一かんとしてけん民のふくしよりも基地ゆう先の  
政策の犠牲となつた。今後アアジアのため、国のためと  
いうことでけん民がいつも「手段」に供され、その「フク  
シ」が第2義的にされるのではないかというけ念があるこ  
とを先づそつ直に申し上げたい。従つて、かかる不遇にた  
えぬいてきたけん民に対 して今後はそのふく  
しを如何に増進するかということにしよう点を当てて復帰  
準備を進めていただきたい。こうすることが、25年間そ  
国復帰を念願とし、心の支えとしてたえて来たけん民に本  
当の復帰のよろこびを与える所以と思う。  
2. 復帰はしゆく願であるが、同時に不安慮がある点をし  
ん身に受止めて欲しい。不安慮の第1は今後の基地の態様

外務省

添付

秘

注意  
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

がどうなるかということである。(核、どくガス、B-5  
2等の問題)、第2は社会経済面に及ぼす不安(米価、  
税法、開発計画、社会保障等)これらについては特例措置  
及び暫定措置を講ぜられる際、あたたかい御配慮が願わし  
い。  
3. その他の要望としては民間資産の「買取」には割り切  
れない感情があり、また土地の復元補償、占領中の人身事  
故の補償の未解決なものについて、けん民の納得のいく措  
置をぜひお願いしたい。  
(3)  
-2-

外務省